

我が国教育問題の重要な課題を提起し  
今後の職業教育・訓練の展望を示唆する

解説 第一卷 山崎昌甫 第二卷 佐々木享 第三卷 木村力雄  
(静岡大学教授) (名古屋大学教授) (東北大学教授)

# 佐々木輝雄職業教育論集 (全三卷)

A五版 上装 函入 総約一、一五〇頁 揃定価二二、〇〇〇円

刊行予定 昭和六二年九月

編集 同刊行会  
発行 多摩出版

# 刊行のことは

佐々木輝雄職業教育論集刊行会代表 淺枝 敏夫

職業訓練大学校指導科教授であられた故佐々木輝雄博士は、東北大学時代から一貫して職業教育問題の研究と講義に生涯の情熱を傾けられ、業半ばにして他界されました。氏の早逝は、氏の今後の研究発展を期待しておりました職業教育関係者にとって大きな痛手であります。

氏は、生前数多くの論文をまとめた著作の刊行を願みすることも、またその時間もありませんでした。この提案を実現させるために、刊行会をつくり準備を進めてまいりましたところ、この度いよいよ刊行の運びとなりました。

第一巻のイギリスにおける技術教育の成立過程の研究は、産業革命が最初に起こった国を対象にしておりますが、学校教育の原点の解明として貴重なものでしょう。第二巻における戦後改革の時点を中心にした学校職業教育の研究は、今日の職業教育を検討するときに避けることのできない視点が含まれていると思います。そして、第三巻の職業訓練に関する諸論文は、画期的な研究書として注目されます。なお、各巻の研究上の意義をそれぞれの部門の専門家に解説していただきました。

このような著作集を今日刊行することは、職業教育・訓練に関する研究がごく限られている現状におきまして極めて価値のあることと存じますと共に、ただ単に、職業教育に関する分野にとどまらず、教育全般の問題解決に貢献することと確信いたします。皆様の今後のお仕事に広く活用されますようお願いいたします。

昭和六二年三月

職業訓練大学校 校長  
中央職業能力開発審議会会長

## 「佐々木輝雄職業教育論集」の特色

- 佐々木輝雄氏がこれまでに発表された幾多の論文の中から、主要な論文を三巻に分類して忠実に再録した。
- その研究は実証を重視しているため、資料的な価値も極めて高い。
- その研究はこれまで未開拓な分野であった職業教育・訓練の研究を本格的に切り開いたものと言える。
- その研究は既存の理論体系を踏まえつつも受講者の視座からの新たな理論を展開している。
- その研究は課題の指摘に止まらず、その根源的な要因を明確にして、読者の新たな研究の示唆となる。
- その研究は職業教育及び職業訓練の実践の状況をも充分に視野に入れていたため、実践の改善にも示唆を与える。

## 職業教育・訓練の理論的開拓者

東京大学名誉教授 細谷俊夫  
日本産業教育学会理事長

職業訓練大学校教授として一七年間、職業教育・訓練を教育的視点から研究し続けた佐々木輝雄氏の業績はきわめて貴重なるものがある。

産業革命を最初に経験したイギリスの徒弟制度ならびに教育制度を、技術教育の側面から説明するという画期的な研究を背景に、日本の職業教育・訓練を主としてその制度面から縦横に論究した点で、氏は独自の境地を拓いた。その研究は、今日涉猟できる最大限の資料を駆使して、克明な分析と独自の解釈を行うという手法を用いていることで、氏の刻苦勉勵ぶりが窺われるのである。

労働者に「生きること」「働くこと」「学ぶこと」の保障を与えることが公共職業訓練制度の存在理由であるとして、ともすれば「消極的な社会施設」として軽視されがちな職業訓練にヒューマニズムの精神を吹き込み、その市民権を主張する氏の学究的情熱はすべての人を魅了するにちがいない。

私は「佐々木輝雄職業教育論集」（全三巻）の刊行を衷心から祝福したい。

## 職業教育の根底を問う

東洋大学教授 倉内史郎  
日本社会教育学会会長

佐々木輝雄さんの研究は、現象の底にひそむ「原理」を探求してやまないところにその特徴がある。いつもアップ・ツー・アイトな応用を追う思いつきの議論とは、本来的に無縁であるように思われる。地味といえれば地味であるが、職業教育研究という実学との接点にありながら、むしろアカデミックな雰囲気漂わせている。

丹念に戦前の職業訓練行政を跡づける作業を重ねられたのも、そこに職業訓練の本質的なものは何かということを見いだすとされたからではなかつたらうか。戦後の職業高校の展開についての論究には、中等教育の普及のなかで学校の職業教育はいかなる性格のものか、という問いが一貫している。さらにまた、イギリス技術教育史をエリザベス女王期の職人徒弟法に立ち帰って検討されたのも、職業訓練の国家政策的な意義を説明しようという課題意識によるものといえよう。

すべてこうした佐々木さんの真骨頂をよくしめす労作が、こんどの「佐々木輝雄職業教育論集」に収録されている。産業構造の再編が求められている現在、いまだ一度職業教育の根底を問い直して見る必要がある。こうしたときに佐々木さんの研究方法は、われわれに貴重な示唆を与えずにおかないことを確信するものである。

## 職業訓練の根源的価値を評価

職業訓練大学校名誉教授  
職業協会前副会長 宗像元介

この度佐々木輝雄博士の職業教育論集が刊行されることになった。若くして逝かれたこの偉才がその生涯のエネルギーを注いだ労作の全貌が、ここに鳥瞰できるようになったことを職業訓練関係者の一人として心から喜ばしいと思う。

佐々木輝雄博士は教育学者として職業訓練制度を教育制度論の立場から広く捉えようとした数少ない専門家の一人である。しかも、我が国の近代学校制度の孕む問題点への厳しい批判者として、職業訓練を暖かい目で見ようとした学者でもあった。

今日、学校教育に関する論議が社会の注目を集めているが、その問題意識の多くは佐々木輝雄博士が早くから指摘していたことであつたし、それは同時に職業訓練の底に潜む根源的価値への評価につながっていたように思う。

しかし、佐々木博士の名を学界で重からしめていたのは、なんといたつてもその学風だつた。錯雑した経過を辿っている職業訓練や職業教育の歴史の中には、博士の綿密な調査や解析によつて、始めて明らかにされたことも少なくないように思う。言うまでもなく歴史の解明は未来への手掛かりになる。

この「佐々木輝雄職業教育論集」が広く江湖に迎えられることを祈ると共に、特に職業訓練のご関係者が本書を糧として生かして戴くことを願つてやまない。

## 教育学界の共通の財産

千葉大学教授  
技術教育研究会代表委員 原 正敏

教育学プロバの出身で、彼ほど職業教育・職業訓練問題に没入した人はいないといつてよいだろう。私など、問題意識過剰で結論を急ぎすぎ、結論へのプロセスに沿つて史料・文献を集め構成しようとしがちである。彼の徹底的な史料・文献の発掘と厳密な考証に学ばなければならないと自戒しながら馬輪を重ねてしまつた。この「佐々木輝雄職業教育論集」からあらためて彼の作風を学びたいと思う。

と同時に、この「佐々木輝雄職業教育論集」が刊行されなかつたら、一般の教育学の視界から、恐らくは見落とされかねない彼の貴重な業績が、教育学界の共通の財産になつたことを喜びあいたい。そして職業教育学研究の礎石として、広く教育学プロバの方々に一見をおすすめしたい。

# 「佐々木輝雄職業教育論集」目次（抄）

## 第一卷 技術教育の成立

—イギリスを中心にして—

（約三七〇頁）

### 第一編 技術教育制度の成立

一、エリザベス七年季徒弟制度と技術教育

二、教貧制度と技術教育

### 第二編 ワークハウス・スクール制度の研究

第一章 徒弟制度と技術教育

第二章 貧民救済への国家関与とワークハウス・スクール制度の萌芽

第三章 ワークハウス・スクール制度の確立

第四章 ワークハウス・スクール制度の崩壊と再編成

## 第二卷 学校の職業教育

—中等教育を中心にして—

（約四四〇頁）

### 第一編 職業教育の課題

一、職業教育の課題

二、教育審議會の中等教育改革論

三、定時制高等学校の実態

### 第二編 高等学校制度改革の課題

—職業教育からの接近—

第一部 占領期日本における高等学校制度改革と工業高等学校制度の展開

第一章 工業高等学校制度改革と工業高等学校制度化論

第二章 高等学校の制度化と工業高等学校

第二部 占領期日本における高等学校制度改革論と職業高等学校

学校

第一章 技能連携制度化論と職業高等学校

第二章 職業教育振興論と職業高等学校

第三章 教育ジャーナリズムにおける諸改革論と職業高等学校

## 第三卷 職業訓練の課題

—成立と意義—

（約三五〇頁）

### 第一編 戦前期職業訓練の行政と制度

一、職業訓練行政組織の成立

二、公共職業訓練の成立過程

三、日華事変期における公共職業訓練

四、熟練工論争の背景と過程

### 第二編 戦後職業訓練の実態と改革

一、職業訓練関係行政組織の再発足

二、職業訓練所の実態

三、労働者教育運動の内的矛盾

四、職業訓練の高等教育化・成人教育化

五、公共職業訓練の実態と改革

六、継続教育としての公共職業訓練

### 第三編 職業訓練の歴史と課題

①はじめに ②職業訓練の三つの「流派」 ③学校教育と職業訓練

④経済発展と職業訓練 ⑤職業訓練の捉え直し

佐々木輝雄職業教育論集刊行会會員一覽

- |         |        |        |       |        |       |        |        |        |        |       |       |        |       |        |       |       |       |       |        |
|---------|--------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 吉田 昌功   | 矢田 義明  | 村中 兼松  | 宮坂 廣作 | 牧野吉五郎  | 野田 茂  | 永田 雅美  | 富崎 元成  | 谷口 雄治  | 高木 英明  | 杉 治男  | ◎佐藤 全 | 斎藤 泰雄  | 越河 六郎 | 木下 春雄  | 金子 良三 | 小川 利夫 | 江上 芳郎 | 祝 藤次郎 | ◎淺枝 敏夫 |
| 若井 彌一   | ◎山崎 昌甫 | 元木 健   | 宮崎 秀一 | 牧 昌見   | 野淵 龍雄 | 水都 昌三  | 富田 康士  | 玉島 純次  | 高橋 昇   | 鈴木健士郎 | 佐藤 信雄 | 榊田 久雄  | 小林 順子 | ◎木村 力雄 | 加納 正巳 | 奥田 卓  | 遠藤 盛男 | 岩井 龍也 | ○新井 吾朗 |
| 渡部 英一   | 山田 雄一  | ◎森 和夫  | 宮地 誠哉 | 松下 菊人  | 花田 登  | ◎馴田 義美 | 豊田 進也  | 對村 恵祐  | ◎多喜 敏夫 | 鈴木 建夫 | 佐藤 博美 | 坂口 茂   | 小林 辰滋 | 倉内 史郎  | 川 守   | 小沢 熹  | 大久保 努 | 岩下新太郎 | ◎荒木 廣  |
| ◎印は代表者  | 山見 豊   | 森口 明   | 宗像 元介 | 水原 克敏  | 原 正敏  | 西見 安則  | 中島 直忠  | 手塚 太郎  | 武島 哲也  | 隅井 努  | ◎澤 和寿 | 坂本 俊治  | 小林 弘樹 | 桑門 圭一  | 川島 春夫 | 小野 一  | 大塚 智啓 | 岩下 陽市 | 石橋 浩司  |
| ◎印は編集委員 | 山本 久雄  | 森下 一期  | 村上 有慶 | ◎道脇 福夫 | 広瀬 俊雄 | 沼田 光正  | ◎中村 謙也 | ◎戸田 勝也 | ◎田中 萬年 | 皇 見之  | 篠崎 襄  | 坂柳 恒夫  | 後藤 豊治 | 桑原 豊   | 菅野 茂甚 | 小幡孫三郎 | 大槻 雄香 | 市川 義兼 | 確井 正久  |
| ◎印は編集幹事 | 山本 和直  | ◎森田 英和 | ◎村瀬 勉 | 宮腰 英一  | 藤本 喜八 | 沼田 俊昭  | 中村 常郎  | 戸田 巖   | 谷口 勝義  | 副島 啓治 | 清水 正男 | ◎佐々木 享 | 齊藤健次郎 | 見城 尚志  | 岸田 孝彦 | 小原 哲郎 | 岡田 淳  | 内堀 玉男 | 伊藤 光成  |

佐々木輝雄職業教育論集

多摩  
出版

定 価 第1巻4,000円、第2巻4,100円、第3巻3,900円  
送 料 各巻300円、2巻で400円、3巻で500円

